

「IRONMAN70.3Asia Pacific Championship Cebu」 レースレポート

開催国：フィリピン (Cebu)

開催日時：2018年8月3日(日)

TriathlonTeam "Big Lake" 代表 室谷浩二選手

天気：曇り時々晴れ 最高気温 34度

距離：スイム 1.9km バイク 90km ラン 21km 合計 113km

総合時間：5時間10分21秒

Asia Pacific Championship エイジカテゴリー (55-59)：優勝



今シーズン4戦目となるIRONMAN70.3Cebuに出場して参りました。

このレースはAsia Pacific Championshipとして位置付けられており、なんと43か国から2500名が集結。ここまでエントリー数が多いIRONMANに出場するのは自身も初となりました。

遠征開始はレースの2日前の午後からで、関空からセブ空港に到着したのは19時前。その後ホテルまでタクシーで向かうも渋滞に巻き込まれ、近距離にもかかわらず20時過ぎに到着。

既に現地入りしていた仲間たちと挨拶を交わした後はバイクを組立てて一安心。

この日は早めに休む事にしました。

翌日は午前6時からホテル前のビーチで500m程泳ぎ、その後仲間たちと朝食を摂り、選手登録、バイク試走、バイク預託、最終準備、そして仲間との夕食会までスケジュールがびっしりと詰まっていたのですが、大きなトラブルもなく午後20時30分には床に就きました。

それではレースを振り返って参ります。



レース当日は午前3時に起床後、軽めの朝食を摂り4時にホテルを出発。

タクシーもバイクラックの目の前まで行ってくれたお蔭で、体力を温存することが出来ました。

そして最終準備とウォームアップも無事に終え6時30分にローリングスタート。私は6番手辺りからスタートしていきました。幸いにもバトルも殆どなく順調に駒を進めていきました。セブの海は本当に綺麗でした。

スタートからゴールまで熱帯魚やサンゴ礁が和ませてくれましたし、海底で待機しているダイバーもはっきりと見えていました。

しかしこのスイムには難関が待ち受けていたのです。毎年沖に出た後のうねりと潮流が激しいと聞いていたのです。スタート前はベタ凧に見えていましたが、第二コーナーを回るとかなりのうねりが正面から襲ってきました。波に滅法弱い私は、ここで心拍を上げても仕方ないと腹をくくり、後から抜いてくる選手についていくことにしました。これが功を奏し第4コーナーを回って残り400m。でもまたまた試練が降りかかってくる。時折、猛烈な潮流が襲ってくるのです。距離にして100m程でしたが、感覚的には1分で30mくらい流されている感じでした。これもなんとかクリアしてようやくスイムアップ。すぐさま腕統計に目をやると35分台、40分は覚悟していた私は気を取り戻し急坂を登り切りバイクスタートしていきました。

【スイム：1.9km 35分46秒 エイジ2位】



バイクは大会2週間前に急遽変更となった1周30kmのコースを3周回します。高低差が最もあるのは橋を渡る時のみで高速レースとなるセッティングでした。

今回のレースで一番感動したのは沿道の声援でした。1周30kmのコース全般にわたって沿道の観客が途絶えなかった事です。そして選手が通る度に一生懸命応援してくれるんです。これで随分と励まされました。レース序盤は様子見しようと思いましたが、それでもAVEは35km/hを超えていました。



幸いにもバイクレグの間はほぼ曇り空。このお陰で攻める事が出来たと思います。

2周目が終わった時点で足の残り具合を確かめたところ、余裕を感じたのでそのままの勢いで3周目も攻めていきました。今回も痙攣など全く起きず「ランでも走れる」という感覚を持ちながらバイクを終える事が出来ました。

【バイク 90km : 2時間 32分 41秒 エイジ2位】



ランは10kmのコースを2周回するセッティングでした。バイクを走り終えた時点で空は晴れ模様に急変。何位でランスタートしたのかは全く分かりませんでした。ランは「最後まで走り通せた者が勝つ」と言い聞きかせ1km毎にあるエイドでしっかり身体を冷やしながら、キロ5分で走る戦法で前を追っていきます。5km地点辺りで同エイジを抜きました。相手も同エイジだというのが分かったのでしょうか。並走が続きましたが直ぐに後退。まだ前にいるかも知れない。兎に角走り続ける事に集中していきました。

10kmの折り返し後は抜く選手が多くなりました。やはり暑さでやられているようです。

ネガティブスプリットは正解でした。集中力が最後まで続いてくれた事で、この暑さの中でも

21km がとても短く感じたくらいでしたから。

ゴールまで残り 100mから沢山の観客がハイタッチしてくれました。

最後まで走り通せた事と、心臓が最後まで正常な動きをしてくれたことの安堵で喜びもひとしおでした。



ゴール手前でガッツポーズし無事にゴール。その後、同エイジたちから「おめでとう」と声をかけてくれます。既にアスリートトラックでチェック済だったようです。エイジ優勝を聞いて本当に嬉しかったです。

ランコースもバイクコースと同様に沿道の観客は途切れる事は無かったです。本当に声援に助けられたレースとなりました。

【ラン：1時間53分14秒 エイジ1位】

6月のIRONMAN70.3SUBICに続き表彰台のテッペンに立つ事が出来ました。

しかも今回のレースはAsia Pacific Championship。アジアで55-59の頂点に立つ事が出来たのです。本当に嬉しかったです。

次のレースは8月後半と9月です。

一旦しっかりとリカバリーしてまた気持ち新たに練習と向き合っていきたいと思います。

2018シーズン、56歳の挑戦はまだまだ続きます。

今回も沢山の応援本当にありがとうございました。



2018/06/07

室谷浩二